(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第4100796号
(P4100796)
(45)発行日　平成20年6月11日(2008.6.11)　(24)登録日　平成20年3月28日(2008.3.28)

(51)Int.Cl.　F I
A47B 97/08 (2006.01)　A47B 97/08 C

請求項の数 2　(全 9 頁)

(21)出願番号　特願平11-4105
(22)出願日　平成11年1月11日(1999.1.11)
(65)公開番号　特開2000-201757(P2000-201757A)
(43)公開日　平成12年7月25日(2000.7.25)
審査請求日　平成17年12月14日(2005.12.14)

(73)特許権者　390039734
株式会社サクラクレパス
大阪府大阪市東成区中道一丁目１０番１７号
(74)代理人　100100480
弁理士　藤田　隆
(72)発明者　澁谷　健一
大阪市中央区森ノ宮中央１丁目６番２０号
株式会社サクラクレパス内

審査官　神　悦彦

最終頁に続く

(54)【発明の名称】画架

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

載置物の下縁を支持する昇降可能な受け部材に物品置き板を着脱自在に設けると共に、物品置き板が受け部材に装着された状態では物品置き板の前後移動と左右移動と下方向移動が規制される画架であって、物品置き板の奥端側から突出する突出部材を物品置き板の裏面に設けるとともに物品置き板の奥端に第１係合部を形成し、この第１係合部を境に物品置き板の奥側よりも手前側の重量を重くし、受け部材の裏面には前記突出部材を収容して左右移動を規制する溝部を設けるとともに受け部材の手前端に前記第１係合部を下側から受けて物品置き板の前後移動と下方向移動の規制を担う第２係合部を形成し、物品置き板の手前側を上にする斜め姿勢で第１係合部を第２係合部に係止してこの係止点を支点に物品置き板の手前側を下方に回動させて突出部材を溝部に嵌合し、突出部材の上面が溝部の受け面に当接することで物品置き板が受け部材に装着されることを特徴とする画架。

【請求項２】

立設部材と桟部材を有し、桟部材に物品置き板を着脱自在に設けた画架において、物品置き板の奥端側から突出する突出部材を物品置き板の裏面に設けるとともに物品置き板の奥端に第１係合部を形成し、この第１係合部を境に物品置き板の奥側よりも手前側の重量を重くし、桟部材の裏面には前記突出部材を収容して左右移動を規制する溝部を設けるとともに桟部材の手前端に前記第１係合部を下側から受けて物品置き板の前後移動と下方向移動の規制を担う第２係合部を形成し、物品置き板の手前側を上にする斜め姿勢で第１係合部を第２係合部に係止してこの係止点を支点に物品置き板の手前側を下方に回動させて

突出部材を溝部に嵌合し、突出部材の上面が溝部の受け面に当接することで物品置き板が桟部材に装着されることを特徴とする画架。

【発明の詳細な説明】

【０００１】

【産業上の利用分野】

この発明は、絵を描く際にカンバスなどを固定する画架に関し、詳しくは絵の具や見本品などの置場を手元付近において簡便に作りだすことができる画架に関するものである。また本発明の画架は、絵画とは関係なく、レストランのメニューやオブジェ等を載置して展示する用途にも活用できるものである。

【０００２】

【従来の技術】

アトリエなどで絵を描く際は、一般的にカンバスを固定する画架が使用されている。また画架は、本来、絵画用具であるが、レストランのメニュー等を載置するディスプレイの用途に活用される場合も多い。画架にはカンバスの下縁と上縁とを、受け部材と押さえ部材とによって挟み込むようにしたものがある。受け部材と押さえ部材は、カンバスを絵を描きやすい位置に配置したり、カンバスの大きさに合わせてこれを固定するために任意の位置に昇降させて固定できるようにしてある。受け部材は例えば縦部材と横部材を貼り合わせて断面を「Ｌ」字形に形成し、上記横部材にてカンバスの下縁を支持する。

【０００３】

【発明が解決しようとする課題】

ところで、絵を描く際には、筆や絵の具入れ、溶剤、定規、見本品等の小物（画材）が手元、特にカンバスの下端近傍にある方が便利である。画材の置場を画家の手元付近に作りだすために、前述の横部材として奥行きが広いものを用い、カンバスの下縁を支持する領域以外の領域を画材置き領域とすることが考えられる。しかし、これでは画架を折り畳んで収納する際に横部材が出っ張ってしまい、収納時のコンパクト化が図れない。また、カンバスの下縁を支持する領域以外の領域を折り畳めるようにして、収納時のコンパクト化を図ることも考えられるが、折り畳みを可能にするためには、蝶番やロック部材といった金具が必要になり、画架が割高になるという欠点がある。また蝶番等によって画材載置部を折り畳む構成とする場合には、画材載置部を取り外すことができず、収納時の荷姿が制約を受ける。逆に収納時のコンパクト化に重点をおいて、画材載置部が取り外し可能な構成とした場合は、一般に画材載置部の脱着作業が煩雑なものとなってしまう傾向にあり、絵を描く際に正規の形状に組み立てたり、画材載置部を取り付けたりするのに手間がかかるものとなる。すなわち一般に画材載置部が脱着可能な画架では、絵を描くべく正規の形状に組み立てる際に、画材載置部を取り付ける手間が加重され、画架の組み立てに時間を要するという問題点があった。

【０００４】

この発明は、上記の事情に鑑み、画材等の置場をコストをかけずに必要なときのみ簡便に作りだすことができる画架を提供することを目的とする。

また併せて本発明は、カンバスの下端近傍に画材等の置場を作りだすことができる画架を提供することを目的とする。

【０００５】

【課題を解決するための手段】

この発明の画架は、上記の課題を解決するために、載置物の下縁を支持する昇降可能な受け部材に物品置き板を着脱自在に設けると共に、物品置き板が受け部材に装着された状態では物品置き板の前後移動と左右移動と下方向移動が規制される画架であって、物品置き板の奥端側から突出する突出部材を物品置き板の裏面に設けるとともに物品置き板の奥端に第１係合部を形成し、この第１係合部を境に物品置き板の奥側よりも手前側の重量を重くし、受け部材の裏面には前記突出部材を収容して左右移動を規制する溝部を設けるとともに受け部材の手前端に前記第１係合部を下側から受けて物品置き板の前後移動と下方向移動の規制を担う第２係合部を形成し、物品置き板の手前側を上にする斜め姿勢で第１

係合部を第２係合部に係止してこの係止点を支点に物品置き板の手前側を下方に回動させて突出部材を溝部に嵌合し、突出部材の上面が溝部の受け面に当接することで物品置き板が受け部材に装着されることを特徴とする。

【０００６】

したがって、物品置き板を受け部材に装着することで画材の置場を簡便に作りだすことができ、折り畳み収納時や画材置場を必要としないときには、物品置き板を外すことができるので出っ張りを生じさせることがない。また受け部材と物品置き板とを連結して折り畳み自在とするための蝶番やロック部材といった金具を必要としないので、画架のコストを低減できる。また本発明の画架では、物品置き板を昇降可能な受け部材に取り付けたので、物品置き板は、受け部材と共に昇降移動する。そのため物品置き板は、常にカンバスの下端近傍にあり、カンバスの直近の位置に絵の具等を置くことができる。そのため、本発明の画架は、使い勝手がよい。

【０００７】

物品置き板が受け部材に装着された状態では物品置き板の前後移動と左右移動と下方向移動が規制されるのが当該物品置き板の不用意な移動や離脱を防止するのによい。例えば、物品置き板の奥端側から突出する突出部材を物品置き板の裏面に設けるとともに物品置き板の奥端に第１係合部を形成し、この第１係合部を境に物品置き板の奥側よりも手前側の重量を重くし、受け部材の裏面には前記突出部材を収容して左右移動を規制する溝部を設けるとともに受け部材の手前端に前記第１係合部を下側から受けて物品置き板の前後移動と下方向移動の規制を担う第２係合部を形成し、物品置き板の手前側を上にする斜め姿勢で第１係合部を第２係合部に係止してこの係止点を支点に物品置き板の手前側を下方に回動させて突出部材を溝部に嵌合し、突出部材の上面が溝部の受け面に当接することで物品置き板が受け部材に装着されるのが望ましい。

【０００８】

また物品置き板を、受け部材以外の桟部材に設ける構成としても、画材の置場を簡便に作りだすことができ、折り畳み収納時や画材置場を必要としないときに出っ張りを生じさせることがないという作用効果や、蝶番等を必要としないという作用効果が期待できる。

このような作用効果が期待できる発明は、立設部材と桟部材を有し、桟部材に物品置き板を着脱自在に設けた画架において、物品置き板の奥端側から突出する突出部材を物品置き板の裏面に設けるとともに物品置き板の奥端に第１係合部を形成し、この第１係合部を境に物品置き板の奥側よりも手前側の重量を重くし、桟部材の裏面には前記突出部材を収容して左右移動を規制する溝部を設けるとともに桟部材の手前端に前記第１係合部を下側から受けて物品置き板の前後移動と下方向移動の規制を担う第２係合部を形成し、物品置き板の手前側を上にする斜め姿勢で第１係合部を第２係合部に係止してこの係止点を支点に物品置き板の手前側を下方に回動させて突出部材を溝部に嵌合し、突出部材の上面が溝部の受け面に当接することで物品置き板が桟部材に装着されることを特徴とする画架である。

【０００９】

【発明の実施の形態】

以下、この発明の実施の形態の画架を図１乃至図６に基づいて説明する。図１は物品置き板７０を受け部材５０に装着した状態の画架全体の斜視図である。図２は物品置き板７０を取り外して折り畳んだ状態の画架全体の斜視図である。図３は受け部材５０を中心に描いた正面下側からの斜視図である。図４は上側の桁２３を中心に描いた背面上側からの斜視図である。図５は物品置き板７０の斜視図である。図６は物品置き板７０を受け部材５０に装着するときの操作手順を示した側面図である。

【００１０】

この実施形態の画架は図１及び図２に示すように、ベース１０の両側部に一対の帆立（立設部材）２０を平行に立設し、その帆立２０間で下側スライダー３０と上側スライダー４０が昇降動し、下側スライダー３０に受け部材５０を固着し、上側スライダー４０に押さえ部材６０を昇降動可能に取り付けたものである。したがって受け部材（桟部材）５０

は、カンバスの大きさに合わせて昇降移動することができる。

【００１１】

ベース１０は、台輪とも称される枠状のものである。そして、本実施形態では、ベース１０の四隅の底面にはキャスターを取り付け、画架を移動させやすいようにする。ベース１０の両側部に立設する帆立２０の下端部は、当該帆立２０を揺動自在とするようにベース１０の略中央で軸支する。帆立２０が直立姿勢から傾斜姿勢まで安定して支えられるように一対の支柱１３を架設する。支柱１３は帆立２０の中間位置とベース１０の後端部とを橋絡するように架設する。支柱１３の上端部は帆立２０の外側に接合し、ハンドル付ネジ８２のネジ部を挿通する。帆立２０の中間位置にはハンドル付ネジ８２のネジ部が貫通するスリット２１を形成し、帆立２０の内側にはナット付当て部材（図示せず）を接合する。ハンドル付ネジ８２のネジ部がナット付当て部材のナットに螺着する。

【００１２】

ハンドル付ネジ８２を締めつけると、支柱１３と帆立２０とがナット付当て部材によって圧着し、帆立２０が任意の姿勢で支柱１３に支えられる。ハンドル付ネジ８２を緩めると、そのネジ部が帆立２０のスリット２１内を移動することができる。従って、帆立２０を寝かせる姿勢にするときは、ハンドル付ネジ８２のネジ部がスリット２１の上側に移動し、帆立２０を立てる姿勢にするときは、ハンドル付ネジ８２のネジ部がスリット２１の下側に移動する。そして、任意の位置でハンドル付ネジ８２を締めつけることにより、帆立２０は支柱１３によって安定して支えられる。

【００１３】

このような一対の帆立２０は、横方向に架設する２本の桁２２，２３によって連結する。上側の桁２３の前面には、図４に示すように、中央に不連続部を設けたガイド板２４を固着する。ガイド板２４の不連続部の対向面にはそれぞれ「Ｖ」字形の溝２５を縦方向に形成することにより、尖鋭な２本の凸条２６を突設する。

【００１４】

上側の桁２３がガイド板２４の不連続部に面する部位には、下側スライダー３０の奥側半分を嵌入する切欠部２７を形成する。下側スライダー３０の側面には、上側の桁２３に固着したガイド板２４の奥側（図４においては手前）の凸条２６を係入する「Ｖ」字形の溝３１を形成する。

【００１５】

このような下側スライダー３０は背貫２８上を摺動するように取り付ける。背貫２８は上側の桁２３と下側の桁２２との間に縦方向に架設するものである。下側スライダー３０の上端部の中央には、上側スライダー４０をハンドル付ネジ８０によって仮固定するためのネジ孔を形成し、下側スライダー３０の上端部の表面にはそのネジ孔を塞ぐクッション（図示せず）を取り付ける。下側スライダー３０の上端部の側面には、上側スライダー４０の側面を係止するための「く」字形のホルダー３２を固着する。従って、上側スライダー４０の側面には、前記ホルダー３２と上記ガイド板２４の不連続部に形成した手前側（図４においては奥側）の凸条２６とが係合する溝４１を形成する。

【００１６】

上側スライダー４０は下側スライダー３０上を摺動するように取り付ける。上側スライダー４０は、所望の位置でハンドル付ネジ８０を締めつけることにより仮固定することができる。すなわち、ハンドル付ネジ８０が上側スライダー４０と下側スライダー３０とを離隔させ、上側スライダー４０の溝４１と下側スライダー３０に固定したホルダー３２とが圧着することによって、上側スライダー４０は仮固定される。

【００１７】

上側スライダー４０には図１に示すように任意の位置に仮固定することができる押さえ部材６０を取り付ける。押さえ部材６０は、カンバスの上縁に当接する横方向の当接部６１と、上側スライダー４０に仮固定するための連結板６２を「逆Ｔ」字形に一体化したものである。具体的には、押さえ部材６０の中心にねじ孔を形成し、裏面側には上側スライダー４０の前面と嵌合する浅溝（図示せず）を形成する。浅溝の両側は「Ｖ」字形の溝（

図示せず）を形成し、上側スライダー４０の側面に形成した溝４１と係合する尖鋭な凸条（図示せず）を突設する。浅溝の中心にはねじ孔（図示せず）の部分を含む縦方向の細溝（図示せず）を形成し、この細溝内にネジ孔を塞ぐクッション部材を取り付け、ネジ孔にハンドル付ネジ８１を装着する。所望の位置でハンドル付ネジ８１を締めつけることにより、押さえ部材６０を上側スライダー４０に仮固定することができる。上記のごとくネジ孔の奥側部分にクッションを取り付けたことにより、上側スライダー４０がハンドル付ネジ８１の先端に傷付けられることはない。

【００１８】

背貫２８の前面には図３に示すように、鋸歯状の係止具２９を装入する。鋸歯状の係止具２９は、多数の斜め部と横部とを連続して形成したもので、斜め部は下側から上側へ手前方向に突出するようにする。この係止具２９には揺動する「Ｌ」字形のレバー５１が係止する。レバー５１は下側スライダー３０の下端部に固着した受け部材５０の底部に枢着する。

【００１９】

受け部材（桟部材）５０の側面形状は略「Ｌ」字形とし、横部分５２と縦部分５３とから構成する。受け部材５０の縦部分５３は、帆立２０の対向面に食い込むようにする。従って帆立２０の対向面には、受け部材５０の縦部分５３の幅の溝２０ａを形成する。受け部材５０の横部分５２は２本の帆立２０の手前側に位置させてそれらの間隔よりも長くし、大きなカンバスも載せられるようにする。受け部材５０の横部分５２の上面には略直方体形状の棒部材５６を左右方向に配置し、載せられたカンバスがずり落ちないようにする。

【００２０】

図２及び図３に示しているように、横部分５２の手前側上面には、下り段差を形成し、この下り段差の最下部から横部分５２の手前にかけて上向きに傾斜するテーパ部５７を形成する。このテーパ部５７は左右方向に条設するが、係合溝５５を形成する箇所には形成していない。テーパ部５７の最上部は横部分５２の上面より下側に位置する。横部分５２の下面の左右２ヶ所に係合溝５５（図３では１ヶ所のみ示している）を形成する。この係合溝５５は横部分５２の奥方向に水平に入り込んだ偏平な方形状空間を成し、その下側を開放するものであるが、上側には受け面を有する。

【００２１】

図５（ａ）に示すように、物品置き板７０の奥側下面に上り段差を形成し、この上り段差の最上部から物品置き板７０の奥側にかけて下向きに傾斜するテーパ部７２を形成する。このテーパ部７２は物品置き板７０の奥側箇所で左右方向に延びている。またテーパ部７２の最下部（奥端）は物品置き板７０の下面より上側に位置する。物品置き板７０の下面の左右２ヶ所に、図５（ｂ）にも示すように、物品置き板７０の奥行きよりも長い突出板７１を奥方向に突出するように固定する。突出板７１の配置間隔及び各々の幅と突出長さは、係合溝５５の形成間隔及び幅と奥行きに対応する。また当該突出板７１を固定した物品置き板７０は、上記テーパ部７２の箇所を境にして手前側の方が奥側よりも重い。

【００２２】

物品置き板７０の取り付けは、図６において仮想線で示しているように、物品置き板７０を斜めにして突出板７１の奥側を係合溝５５の入口端に斜め上方から差し込み、この斜め姿勢のままテーパ部７２を受け部材５０のテーパ部５７に上側から係合させ、この係合点を支点にして物品置き板７０の手前側を下向きに回動させ、突出板７１を係合溝５５に嵌合する。テーパ部７２を境にして物品置き板７０の手前側が重いから、図６において反時計回りのモーメントが生じ、突出板７１の上面が係合溝５５の受け面に当接し、物品置き板７０は水平姿勢で固定される。

【００２３】

テーパ部７２とテーパ部５７との係合のみでは物品置き板７０の横方向の移動規制はできないが、突出板７１が係合溝５５に嵌合しているので、物品置き板７０の横方向の移動は規制される。物品置き板７０を水平方向手前側に引き抜こうとする力が加わったとき、

テーパ部７２とテーパ部５７とが当接していることによって物品置き板７０は上方に移動しようとする。この上方移動は係合板７１の上面が係合溝５５の受け面に当接しているために許されないから、物品置き板７０を水平方向手前側に引き抜くことはできない。一方、物品置き板７０の取り外しは、物品置き板７０の手前側を上方に持ち上げて前記係合点を支点にして回動させ、物品置き板７０の斜め姿勢を保ってこれを引き抜けばよい。

【００２４】

物品置き板７０を使用しないときには、図１において仮想線で示しているように、この物品置き板７０をベース１０の横渡部材１１，１１間に掛け渡して収納することができる。

【００２５】

なお、この実施形態では、物品置き板７０および受け部材５０の係合部をテーパ部７２およびテーパ部５７とすることによって言わば「Ｖ」字形の凸部と凹部による係合を行ったが、この係合に代えて方形凸部と方形凹部との係合を採用してもよい。ただし、物品置き板７０の斜め姿勢で方形凸部と方形凹部との係合のきっかけを得るためには方形凹部を大きくしなければならず、最終的な係合状態で隙間が生じやすいことから、物品置き板７０が前後方向に少しがたつくおそれがある。従って、この実施形態のテーパ部７２とテーパ部５７との係合を採用する方がよいといえる。

【００２６】

また、この発明は上記実施の形態に限定することなく、本発明の要旨内において設計変更することができる。例えば、２本の帆立は平行に立設するものに代え、頂部を連結するように「逆Ｖ」字形に立設することもできる。この場合は背貫は不要となる。さらに、ベースは台輪と称される枠状のものに限定するものではなく、Ｈ形状などでも実施することができる。また、桁は上下に２本、架設するほか、桁と背貫とを一体構造とすることもできる。

【００２７】

【発明の効果】

以上説明したように、この発明の画架であれば、受け部材に物品置き板を着脱自在に設けたから、画材の置場を必要に応じて手元付近において簡便に作りだすことができ、折り畳み収納時や画材置場を必要としないときには、物品置き板を外すことができるので出っ張りを生じさせることがない。また本発明の画架は、物品置き板の脱着が容易であり、画架の収納作業や組み立て作業が簡単である。そのため本発明の画架は、絵を描くべく正規の形状に組み立てる際に要する時間が短い。しかも蝶番やロック部材といった金具を必要としないので、製造コストを低減できる。また物品置き板の前後移動と左右移動と下方向移動を規制する構成であれば、当該物品置き板の不用意な移動や離脱を防止できるという効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【図１】　物品置き板を受け部材に装着した状態の画架全体の斜視図である。

【図２】　物品置き板を取り外して折り畳んだ状態の画架全体の斜視図である。

【図３】　受け材を中心に描いた正面下側からの斜視図である。

【図４】　上側の桁を中心に描いた背面上側からの斜視図である。

【図５】　同図（ａ）は物品置き板を表側から見た斜視図であり、同図（ｂ）は物品置き板を裏側から見た斜視図である。

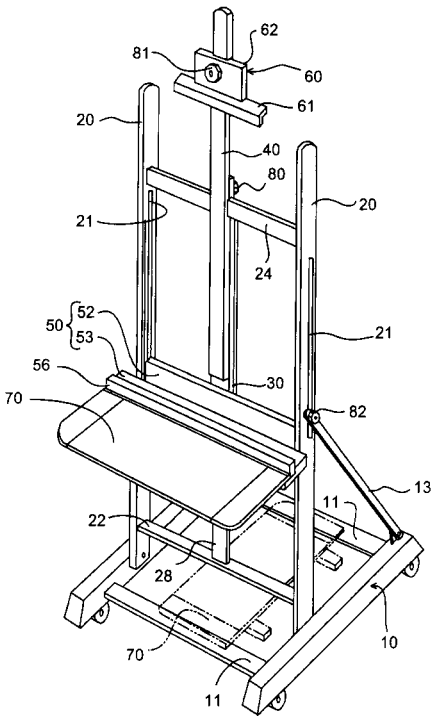
【図６】　物品置き板を受け部材に装着するときの操作手順を示した側面図である。

【符号の説明】

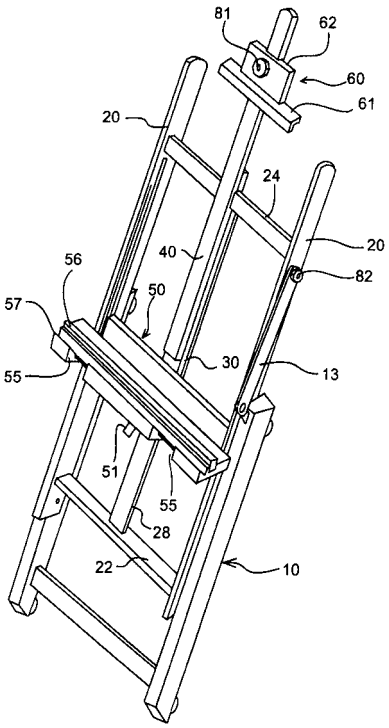
１０　ベース
１３　支柱
２０　帆立（立設部材）
２８　背貫
３０　下側スライダー
４０　上側スライダー

５０ 受け部材（桟部材）
５５ 係止溝
５７ テーパ部
６０ 押さえ部材
７０ 物品置き板
７１ 突出部材
７２ テーパ部

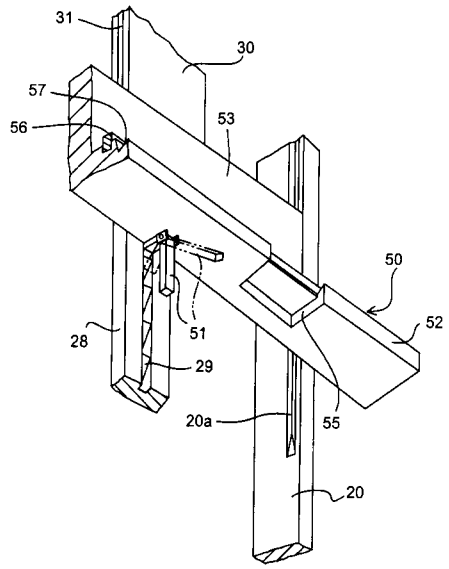
【図１】



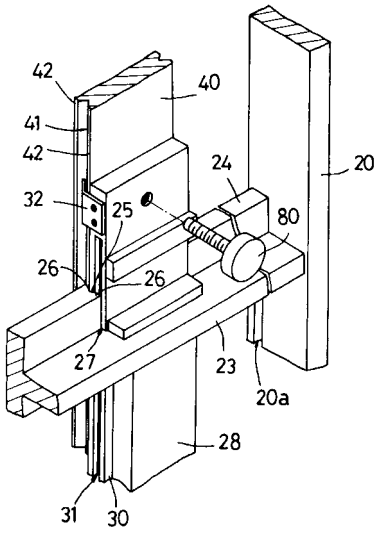
【図２】



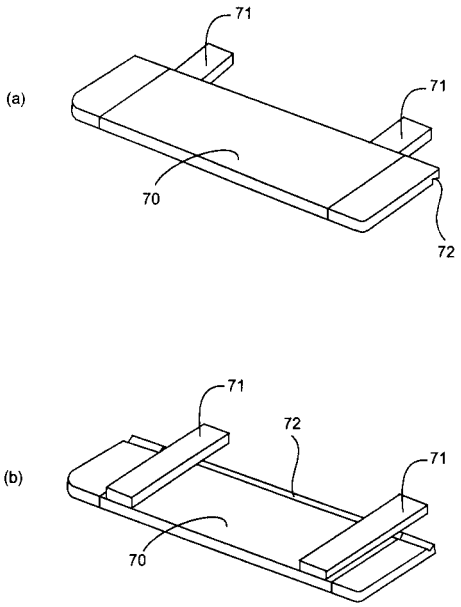
【図３】


31
30
57
56
53
50
52
28
51
29
20a
55
20

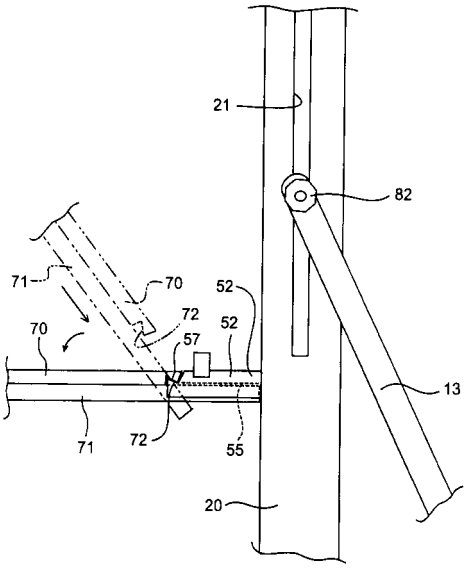
【図４】


42
40
41
42
24
20
32
25
80
26
26
27
23
20a
28
31
30

【図５】


(a)
71
71
70
72
(b)
71
72
71
70

【図６】


21
82
71
70
52
72
70
57
52
13
71
72
55
20

フロントページの続き

(56)参考文献 特開平０４－３５７９０６（ＪＰ，Ａ）
特開２０００－１３５１３６（ＪＰ，Ａ）
実開昭６３－２０２３４３（ＪＰ，Ｕ）
実開平０１－１５８７５０（ＪＰ，Ｕ）
実公昭３５－０２８３２８（ＪＰ，Ｙ１）
実開昭６１－１８７５３７（ＪＰ，Ｕ）
特開平１０－０４２９６６（ＪＰ，Ａ）
登録実用新案第３０４６６４５（ＪＰ，Ｕ）
実開昭４９－０４６８４９（ＪＰ，Ｕ）
実開昭４８－０３３４４３（ＪＰ，Ｕ）
実公昭４５－００８１７１（ＪＰ，Ｙ１）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
A47B 97/08